

林さん、横山さん、駒井さんの美濃陶芸



永年保存作品に選定

東濃信金が購入、来月から展示

東濃信用金庫の美濃陶芸作品永年保存事業の本年度選定作品が17日発表され、永年保存作品に林友加さん(49)・土岐市泉町、横山拓也さん(47)・多治見市、駒井正人さん(40)・同市高田が選定された。また特別永年保存選定作品に故人で人間国宝の加藤土師萌さん、佐々木正さんの作品が選ばれた。

林さんの「志野茶碗」は、力強い造形に灰色とピンクの発色の対比が美しいねずみ志野の茶わん。横山さんの「碗と方法」は茶わんの5点セットで、粗い土と黒の釉薬を組み合わせ、5碗5様の表情を持たせた。駒井さんの「茶器」は白と黒それ

ぞれの急須、せん茶揃いなどの24点セット。特別永年保存選定作品は、加藤さんの「吹墨色絵飛鶴文大皿」、佐々木さんの「織部四方蓋物」が選ばれた。

発表会は多治見市虎溪山町のとうしん学びの丘エールで開かれ、推進委員会の加藤幸兵衛委員長が「それぞれの切り口を持った個性的な作品ばかり」と紹介。林さんは「10年ほど前から志野に取り組んでおり、永年保存は目標の一つだった」、横山さんは「素材を生かす自分なりの解釈のありようを見ていただきたい」、駒井さんは「理想とする形態を見せられれば、自分なりの作品を生み出したい」と喜びを語った。

永年保存選定作品は2月に推進委員会で選んだ。同金庫が作品を買い上げ、4月1日から同所のとうしん美濃陶芸美術館で展示する。事業は35年目で、永年保存作品は108点になった。(箕浦由美子)

永年保存選定作品を前にする(左から)林友加さん、横山拓也さん、駒井正人さん、多治見市虎溪山町、とうしん学びの丘エール